

自らの進む道を信じて編み出した  
独特のイラストレーション

硬くてシリアスな情報が多い新聞紙面の中に、ぱっと華やいたページが登場したのは、2010年4月19日のこと。月2回、月曜朝刊の真ん中に折り込まれる「朝日新聞GLOBE」内に掲載されたボルドーワイン委員会

の広告で、キャッチコピーは「今日の一本に迷ったら、いつでもどこでもボルドーワイン」。100本のワインボトルの写真と様々なシチュエーションでワインを楽しむイラストレーションを組み合わせた印象的なビジュアルが話題となった。イラストレーションを描いたのは、イラストレーター「ミツミマリさん」。

「広告の内容はフランスワインですが、新聞広告を見る人は日本人。そこで、外国のエッセンスと日本つばさを混ぜ合わせながら描きました」

「よく見るとこたつでワインを飲んでいたり、おせちとワインを組み合わせていたり。花とワインを持った男性については、そんな風に訪れて来たらずてきですよ」とミツミさん。声が弾む。

「アイデアの源は見た夢の中から」

新聞広告を手がけたのは初めてのこと。普段は雑誌の挿絵や書籍の装丁画など、編集ページの仕事を中心だという。新聞広告との違いについては「新聞広告は見ると人の年代が幅広いですよ。雑誌のようにターゲットティングされていないので、どの年代の誰が見ても楽しめるように、男女も年代も偏らないように気を配りました」と語る。

「オーダーがなければ男性を外国人風に顔を大きく描く。顔が大きいと、表情によってはユーモラスに見える場合もあるんです。だから、媒体によって描き分けるようにしています」。今回の新聞広告では違和感を与えないように、いつもより顔は小さめに描かれている。

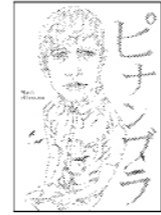
この独特なタッチはミツミさんの夢から生まれた。夢に顔が大きくなって体の小さな人が出てきたんです。目が覚めても、ぼんやり覚えていたので、絵に描いてみたのがきっかけです。

「手描きのラフをカーボン紙を使ってキャンパスにトレースした後、フォトリソで仕上げている。銅版画のようにザラっとした粗さや汚れのような擦れの表現は、アナログとテクノロジーを融合させて生まれた。ミツミさんが

編み出したオリジナルの技法は「ある日、突然思いついてやってみたら出来たもの。夢や偶然から生まれたというタッチや技法だが、その背景には、オリジナルリテイヤーがなければイラストレーターとして生き残っていけない」と焦り、ひたすら絵のことを考え、必死に描き続けた時間が確実に存在する。

「イラストレーターは天職だと思っています」と潔く言い切るミツミさん。「絵を描くことなら、どんな苦しいことでもがんばれる。気づくと10時間くらい描き続けていることもあるんですよ。そのパワーの源は、一度は断念した美術の道を会社員になつてから再チャレンジしたという経緯、あきらめたくないという自らの行動に移した、そのパワーが今もミツミさんを支えている。」「将来は海外でも仕事したい」と夢を語る。人脈に恵まれ

「ピナンブラ」  
7月7日～8月4日、ミツミマリさんの作品展「ピナンブラ」が、東京・谷中の「COUZT CAFE(コートカフェ)」電話:03-5815-4660で開催中。

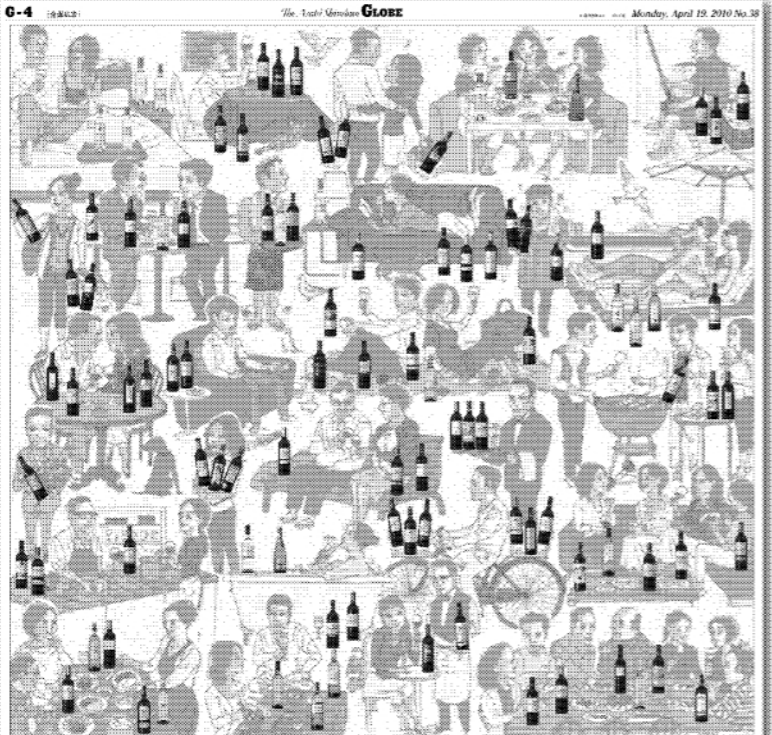


「ピナンブラ」  
文/山下薫 写真/星野章

「ピナンブラ」  
7月7日～8月4日、ミツミマリさんの作品展「ピナンブラ」が、東京・谷中の「COUZT CAFE(コートカフェ)」電話:03-5815-4660で開催中。

「ピナンブラ」  
7月7日～8月4日、ミツミマリさんの作品展「ピナンブラ」が、東京・谷中の「COUZT CAFE(コートカフェ)」電話:03-5815-4660で開催中。

「ピナンブラ」  
7月7日～8月4日、ミツミマリさんの作品展「ピナンブラ」が、東京・谷中の「COUZT CAFE(コートカフェ)」電話:03-5815-4660で開催中。



今日の一本に迷ったら、いつでもどこでもボルドーワイン。

**VALUE BORDEAUX 100**  
[パヴェールボルドー 2010]

2010年4月19日付「朝日新聞グローブ(GLOBE)」掲載 ボルドーワイン委員会

www.bordeaux.com